

## 共同研究

(二〇一五年四月一日〜九月三〇日)

### 戦後日本文化再考

(研究代表者 坪井秀人、幹事 磯前順一)

〔共同研究員名〕

浅野麗、石川巧、岩崎稔、大原祐治、岡田秀則、長志珠  
絵、辛島理人、狩俣真奈、川口隆行、菅野優香、北中淳  
子、北原恵、木村朗子、高榮蘭、紅野謙介、五味洸典嗣、  
斉藤綾子、佐藤泉、塩野加織、島村輝、沈熙燦、申知瑛、  
鈴木勝雄、張政傑、十重田裕一、鳥羽耕史、戸邊秀明、成  
田龍一、朴貞蘭、橋本あゆみ、福岡良明、松原洋子、水川  
敬章、光石亜由美、美馬達哉、村上陽子、尹芷汐、李承  
俊、鷺谷花、渡邊英理、渡辺直紀、郭南燕、北浦寛之、石  
川肇、杉田智美、栄元、王莞晗、田村美由紀、増田斎

〔海外共同研究員名〕

五十嵐恵那、キャロル・グラック、酒井直樹

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一五年四月一日

狩俣真奈「読書会 西川長夫、大野光明、番匠健一編『戦

後史再考』(平凡社、二〇一四)第一章『戦後史再考』

(西川長夫)」

石川 肇「読書会 西川長夫、大野光明、番匠健一編『戦

後史再考』(平凡社、二〇一四)第三章『引揚者たち

のわりきれない歴史―植民地主義の複雑さに向き合

う』(杉浦清文)」

橋本あゆみ「読書会 西川長夫、大野光明、番匠健一編

『戦後史再考』(平凡社、二〇一四)第四章『占領」

とは何か』(西川祐子)』

二〇一五年四月一二日

栄 元「読書会 西川長夫、大野光明、番匠健一編『戦

後史再考』(平凡社、二〇一四)第五章『占領と民主

主義—民主主義の矛盾と「私論」の可能性』(沈熙燦)

張 政傑「読書会 西川長夫、大野光明、番匠健一編『戦

後史再考』(平凡社、二〇一四)第八章『ベトナム戦

争体験とは何であったか—「対岸の火事」から見る日

本』(岩間優希)』

尹 芷汐「読書会 西川長夫、大野光明、番匠健一編『戦

後史再考』(平凡社、二〇一四)第九章『映画「家族

から見た高度経済成長』(番匠健一)』

李 承俊「読書会 西川長夫、大野光明、番匠健一編『戦

後史再考』(平凡社、二〇一四)第九章『戦後史の外

縁—誰が次の時代をつくるのか?』(崔博憲)』

〈第二回研究会〉

二〇一五年六月一三日

【一九五〇年代の『記録』と運動—幻灯、紙芝居、絵画と

文学】  
幻灯上映『松川事件 一九五一』(一九五一年)製作…人

民幻灯協会(日本労農救援会)

鷺谷 花「《事件》を物語る幻灯—『松川事件 一九五一』

と社会運動への幻灯の参入」

鈴木勝雄「現実批判としての絵画—形式の変革という観点

から」

鳥羽耕史「下丸子からルポルタージュ叢書へ—(現在の会)

がつかないだもの」

二〇一五年六月一四日

美馬達哉「戦争の思考 フーコー 一九七六年を読む」

【占領期の京都とメディア】

石川 巧「幻の雑誌『国際女性』とその周辺」

西川祐子「織田作之助『それでも私は行く』」

コメント 北原 恵

石川 肇「井伊直弼とマッカーサー—舟橋聖一『花の生

涯』前夜—」

辛島理人「戦後日本文化とアメリカの知日派」

討論者 申 知瑛

大原祐治「占領期におけるローカル・メディアのかたち—

雑誌『月刊にひがた』の場合」  
討論者 狩俣真奈

紅野謙介『『大菩薩峠』の戦後——京大人文研と受容の軌跡』

### 人文諸学の科学史的研究

〔研究代表者 井上章一、幹事 瀧井一博〕

〔共同研究員名〕

今谷明、上島亨、上村敏文、鵜飼正樹、内田忠賢、長田俊樹、小澤実、小路田泰直、斎藤成也、佐藤雄基、関幸彦、高木博志、高谷知佳、竹村民郎、玉木俊明、鶴見太郎、永岡崇、林淳、シルヴィオ・ヴィータ、藤原貞朗、安田敏朗、若井敏明、荒木浩、伊東貴之、大塚英志、倉本一宏

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一五年七月三一日

井上章一「南北朝内乱前後の日本史に関するひとつの展望」

佐藤雄基「朝河貫一と欧米の歴史家たち」

討議「成果出版へむけて」

### 戦争と鎮魂

〔研究代表者 牛村 圭、幹事 ション・ブリン〕

〔共同研究員名〕

岩崎徹、大東和重、加藤めぐみ、川村寛文、川本玲子、金志映、栗原俊雄、古田島洋介、小堀馨子、佐伯順子、末本文美士、谷口幸代、竹村民郎、等松春夫、永井久美子、西原大輔、眞嶋亜有、吉井文美、吉田（古川）優貴、今泉宜子、磯前順一、稲賀繁美、倉本一宏、松田利彦、劉建輝、郭南燕、朴美貞、西田彰一、エヤル・ベンアリ

〔海外共同研究員名〕

徐載坤、平松隆円、堀まどか

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一五年八月八日

一年目を振り返って（既発表者による報告等を中心に）

永井久美子「夫の菩提を弔うということ——『平家物語』小

宰相を中心に」

画像資料（絵葉書・地図・旅行案内・写真等）による帝国域内文化の再検討

〔研究代表者 劉 建輝、幹事 北浦寛之〕

〔共同研究員名〕

安藤潤一郎、井村哲郎、上垣外憲一、岸陽子、呉孟晋、小

林茂、小林善帆、姜克実、白幡洋三郎、鈴木貞美、戦曉梅、  
 単援朝、塚瀬進、鳥谷まゆみ、根川幸男、松宮貴之、森田  
 憲司、李相哲、劉岸偉、仲万美子、伊東貴之、稲賀繁美、  
 井上章一、松田利彦、森洋久、石川肇、陳其松、韓錫政

〔海外共同研究員名〕

王中忱、徐興慶、孫江

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一五年五月八日

姜 克実 「日中戦争における日本軍の軍用地図について―

山東省を例にして」

上垣外憲一 「勝海舟について」

二〇一五年五月九日

井上章一 「都市景観に見る日本の近代」

鄭 在貞 「地図と写真で見る漢陽都城」

説話文学と歴史史料の間に

〔研究代表者 倉本一宏、幹事 榎本 涉〕

〔共同研究員名〕

上野勝之、内田滯子、追塩千尋、大橋直義、尾崎勇、加

藤友康、川上知里、木下華子、小峯和明、佐藤信、佐野  
 愛子、関幸彦、五月女肇志、曾根正人、多田伊織、蔦尾  
 和宏、中村康夫、野上潤一、野本東生、樋口大祐、藤本孝  
 一、古橋信孝、保立道久、前田雅之、松蘭齋、三舟隆之、  
 山下克明、横田隆志、呉座勇一、荒木浩、井上章一、中町  
 美香子、谷口雄太、グエン・ニュー・ヴー・クイン

〔海外共同研究員名〕

グエン・ティ・オワイン、宋浣範、魯成煥、劉曉峰

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一五年五月一六日

研究会の成果等についての打ち合わせ

二〇一五年五月一七日

倉本一宏 「説話文学と歴史史料の間に―花山院説話をめ

ぐって」

荒木 浩 「物語・談・著聞集の語りと史料性」

〈第二回研究会〉

二〇一五年七月四日

古橋信孝 「新しい世界への関心」

保立道久 「倭国神話とタカミムスヒ―火山と雷電の神」

三舟隆之「日本霊異記の史料性と関連史料―史料性の方法

論

尾崎 勇『治承物語』の今様をうたう徳大寺実定の意味

二〇一五年七月五日

大橋直義「史書・伝記・縁起―『扶桑略記』の多様な側面」

横田隆志「通天の帯の献上説話―『今昔物語集』巻二十六

第一二話をめぐって―」

上野勝之「仏教説話とその素材」

井上章一「聖徳太子とネストリアン」

〈第三回研究会〉

二〇一五年八月二九日

小峯和明「東アジアの説話世界―第三極の説話・話芸論へ」

伊東玉美「日記と説話文学―『台記』の場合」

錦 仁「和歌の名所（歌枕）という説話」

マヤ・ケリヤン「History of Post-World War II Consumption:

Japan and Bulgaria」

二〇一五年八月三〇日

谷口雄太「中世における吉良氏と高氏―室町期南九州史料

にみる伝承と史実―」

加藤謙吉「山背秦氏の祖先伝承―秦公酒と秦大津父―」

渡辺精一『夷堅志』が示唆するもの―『古今著聞集』、『徒

然草』、花咲かじいさん」

おたく文化と戦時下・戦後

〔研究代表者 大塚英志、幹事 北浦寛之〕

〔共同研究員名〕

浅野龍哉、板倉史明、内田力、香川雅信、菊地暁、キム・

ジュニアン、木村智哉、近藤和都、嵯峨景子、佐野明子、

鈴木麻記、須藤遙子、滝浪佑紀、谷口恵太、鶴見太郎、富

田美香、中川譲、藤岡洋、細馬宏通、牧野守、室井康成、

山路亮輔、山本忠宏

〔海外共同研究員名〕

キム・キュヒョン、秦剛、マーク・スタインバーグ、堀ひ

かり

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一五年四月二四日

浅野龍哉『映画式まんが家入門』制作報告1」

斉 夢非「中国少女まんがの方法」

山路亮輔「3Dモデリングまんがの方法」

討議「『翼賛家大和一家』をめぐるって」

〈第二回研究会〉

二〇一五年五月二二日

山路亮輔「WEBコミックの文法変化についての研究・経過報告 3Dモデリングによる2Dキャラクターの設定」

計

計

谷口恵太「WEBコミックの文法変化についての研究・経過報告 WEB表現における色彩文法の検討」

過報告 WEB表現における色彩文法の検討」

浅野龍哉「海外向けまんが入門書制作の経過報告」

近藤和都「映画と印刷メディアの相関史―初期映画から角川映画まで」

川映画まで」

齊 夢非「戦前戦後まんが入門書資料報告」

アルバロ・エルナンデス「メキシコのまんがアニメ研究の現状」

現状」

〈第三回研究会〉

二〇一五年六月一三日

近藤和都「宣伝技法としての『館人格』一九二〇年代日本における映画館の興行モード」

パトリック・W・ガルブレイス「北米のオタク、ファン研究をめぐるって」

究をめぐるって」

大塚英志「〈おたく〉の発生 見えない文化大革命という

問題」

コメント 蔣 葳

〈第四回研究会〉

二〇一五年七月一七日

山路亮輔「リミッテドアニメにおける残像の問題」

谷口恵太「WEB表現における色彩文法の検討」

浅野龍哉「海外向けまんが入門書制作の経過報告②」

大塚英志「リミッテドアニメと第三のモニタージュ問題」

二〇一五年七月一八日

松井広志「戦時下における少年文化の形成―模型航空教育と兵器模型」

と兵器模型」

鈴木麻記「漫画を『描く読者』の成立―漫画家集団による『合作』を事例として」

『合作』を事例として」

齊 夢非「中国における映画的手法の受容をめぐるって」

〈第五回研究会〉

二〇一五年九月一九日

板倉史明「戦時下におけるアマチュア映画文化」

鶴見太郎「一九三〇年代の『アトリエ』運動」

日本の舞台芸術における身体―死と生、人形と人工体

(研究代表者 ボナヴェントゥーラ・ルペルティ、幹事 細川周平)

〔共同研究員名〕

赤間亮、板谷徹、井上理恵、岩井眞實、梅山いつき、菊地浩平、桜井圭介、佐藤恵里、滝澤修身、武井協三、竹本幹夫、カティア・チェントソツエ、土田牧子、中嶋謙昌、深澤昌夫、藤井慎太郎、森下隆、山田和人、李応寿

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一五年九月一二日

研究計画の概要、目的等について討論

佐藤恵理「俄の身体―『一夜漬け』の表現―」

日本の軍事戦略と東アジア社会―日中戦争期を中心として―

(研究代表者 黄 自進、幹事 劉 建輝)

〔共同研究員名〕

相澤淳、浅野豊美、家近亮子、井上寿一、王柯、加藤聖文、黒沢文貴、小菅信子、佐藤卓己、澁谷由里、姜克実、鈴木多聞、田嶋信雄、段瑞琮、戸部良一、波多野澄雄、服

部龍二、馬曉華、松浦正孝、松重充浩、劉傑、鹿錫俊

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一五年四月二五日

王 柯『中華』の思想から『中華思想』へ―日本にお

る『中華思想』という言説の誕生―

小菅信子「中国における日本軍お英国人抑留者処遇問題に

ついて―対中戦争期から対英戦争期を中心に―」

二〇一五年四月二六日

黄 自進「日中戦争前夜における蒋介石の対日外交…反共

連携論を中心に」

松浦正孝「財界人達の戦前・戦争・戦後―藤山愛一郎・村

田省蔵・水野成夫とアジア主義」

戸部良一「日本人は『支那事変』をどう見たのか 一九三七

～四五」

二一世紀一〇年代日本文化の軌道修正…過去の検証と将来へ

の提言

(研究代表者 稲賀繁美、幹事 牛村 圭)

〔共同研究員名〕

鶴戸聡、大西宏志、岡本光博、小川さやか、小倉紀蔵、加治屋健司、鞍田崇、呉孟晋、小崎哲哉、孤田真介、近藤高弘、澤田敬司、白石嘉治、戦晓梅、全美星、滝澤修身、多田伊織、千葉慶、張競、テレングト・アイトル、長門洋平、中村和恵、西田雅嗣、西原大輔、二村淳子、波嵯栄ジェニファしょう子、橋本順光、範麗雅、平松秀樹、平芳幸浩、藤原貞朗、シルヴィー・ブロッソー、松原知生、クリストフ・マルケ、三原芳秋、本浜秀彦、山中由里子、山本麻友美、與那覇潤、マシュー・ラーキング、李建志、今泉宜子、林洋子、磯前順一、山田奨治、劉建輝、榎本渉、フレデリック・クレインス、森洋久、朴美貞

〔海外共同研究員名〕

大橋良介、デンニツア・ガブラコヴァ、王成

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一五年四月一七日

朴美貞「李仲燮とディアスポラ―ヘニセ―訴訟の真偽」  
稲賀繁美「ヒロシマからフクシマへ…二〇世紀の文化遺産

とは何だったのか？」

二〇一五年四月一八日

江口久美「パリの歴史的建造物保全―都市を見るまなざしの誕生（発表者著書『パリの歴史的建造物保全』中央公論美術出版、二〇一五年一月）」

〈第二回研究会〉

二〇一五年六月二〇日

稲賀繁美「ヒロシマからフクシマへ…二〇世紀の文化遺産  
とは何だったのか？」

鞍田崇「民藝のインティマシー―『いとおしさ』をデザインする」

研究会の今後等について打ち合わせ

二〇一五年六月二一日

討論「海賊行為研究について」

〈第三回研究会〉

二〇一五年七月三〇日

アンドリュウ・ガーストル「春画における男色の描写」

リカル・ブル・トゥルイ「春画の蛸とジャポニスム」

橋本順光「蛸をめぐる図像の越境と海賊行為―『山海名産  
図会』から『喜能会之故真通』を中心に」

コメント 石上阿希、矢野明子

二〇一五年七月三一日

野呂田純一「極東アジアにおける美術行政の〈土着化〉」

稲賀繁美「美術交流の翻訳学にむけて」

〈第四回研究会〉

二〇一五年八月二八日

「成果論文集の編集にむけて」

集中討議「海賊史観からみた世界史構想の刷新にむけて」

「海賊史観からみた二二世紀一〇年代日本の軌道修正」

申 昌浩「舞台（公演）芸術のための伝統邦楽器の改良—

宮城道雄とその周辺の挑戦」

万国博覧会と人間の歴史——アジアを中心に

（研究代表者 佐野真由子、幹事 井上章一）

〔共同研究員名〕

石川敦子、市川文彦、伊藤奈保子、鵜飼敦子、江原規由、

川口幸也、神田孝治、澤田裕二、寺本敬子、中牧弘允、芳

賀徹、増山一成、武藤秀太郎、武藤夕佳里、橋爪紳也、林

洋子、稲賀繁美、瀧井一博、ジョン・グリーン、劉建輝、

朴美貞

〔海外共同研究員名〕

青木信夫、岩田泰、ウィーベ・カウテルト、シビル・ギル

モンド、徐蘇斌

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一五年五月一六日

「論集原稿についての報告」

森 隆一「博覧会作業の裏話」

二〇一五年五月一七日

暮沢剛巳・江藤光紀・鯖江秀樹「『万博に見る芸術の政治

性——紀元二六〇〇年博の考察と国際比較を中心に』

研究会からの問題提起」

討論「これからの万博研究」

今年度の活動についての打ち合わせ

〈第二回研究会〉

二〇一五年八月二七日

懇談「高良倉吉氏（琉球大学名誉教授、元沖縄県副知事）

と沖縄国際海洋博覧会・沖縄館、海洋文化館リニュー

アル等について」

二〇一五年八月二八日

一般財団法人沖縄美ら島財団にて、現在の公園管理・運営

の実際や、沖縄海洋博からの理念継承をめぐる現場の

考えなどについての意見交換

沖縄海洋博の理念や諸要素の継承・活用という観点から、

海洋文化館、おきなわ郷土村、水族館を中心に視察

二〇一五年八月二九日

沖縄県立博物館・美術館（那覇市）見学

### 植民地帝国日本における知と権力

（研究代表者 松田利彦、幹事 瀧井一博）

〔共同研究員名〕

飯島渉、岡崎まゆみ、小野容照、加藤聖文、加藤道也、川

瀬貴也、河原林直人、栗原純、洪宗郁、慎蒼健、通堂あゆ

み、長沢一恵、アルノ・ナンタ、春山明哲、松田吉郎、宮

崎聖子、やまだあつし、李昇燁、中生勝美、稲賀繁美、劉

建輝、歐素瑛

〔海外共同研究員名〕

陳延媛、山本浄邦、李炯植

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一五年五月二四日

岡崎まゆみ「植民地期朝鮮における『民事法』の形成―

『専門家集団による「知」の観点から』

松田利彦「東亜聯盟運動と朝鮮人―敗戦後日本における行

跡を中心に」

河原林直人「台北帝国大学と台湾総督府の距離感・楠井隆

三に着目して」

通堂あゆみ「学位授与から見る帝国の大学と植民地」

台湾でのワークショップ計画についての打ち合わせ

〈第二回研究会〉

二〇一五年七月一八日

李 昇燁「植民地統治と在野の知（二）…細井肇の朝鮮問

題講演（一九二三―一九二四年）」

中生勝美「アメリカの日本研究…対敵戦略調査から学術研

究への変貌」

歐 素瑛「台北帝国大学と熱帯気象学の展開―白鳥勝義を

中心に」

二〇一五年七月一九日

西田彰一「植民地における寛克彦の活動について」

加藤道也「植民地官僚の統治認識―大内丑之助を手掛かり

に―」

明治日本の比較文明的考察―その遺産の再考―

〔研究代表者〕 瀧井一博、幹事 牛村 圭

〔共同研究員名〕

浅見雅男、五百旗頭薫、岩谷十郎、植村和秀、大川真、岡本貴久子、小川原正道、勝部真人、加藤雄三、國分典子、塩出浩之、島田幸典、清水唯一朗、谷川穰、永井史男、長尾龍一、中村尚史、福岡万里子、前田勉、松田宏一郎、山田央子、奈良岡聰智、大久保健晴、林洋子、ジョン・ブリン、佐野真由子

〔海外共同研究員名〕

アリステア・スウェール、ハラルド・フース

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一五年四月二五日

研究会の進め方、ガイドンス、趣旨説明、自己紹介

〈第二回研究会〉

二〇一五年六月五日

大久保健晴「近代日本の政治構想とオランダ―ヨーロッパ

国際法との出会いを中心に―」

松田宏一郎「革命政権と『條理』・『慣習』(それから『情

理』?)―政治的正当性と法源の論理」

二〇一五年六月六日

奈良岡聰智「対華二十一ヵ条要求とは何だったのか―一次

世界大戦と日中対立の原点」

岩谷十郎「明治太政官期と法創造―拙著『明治日本の法解

釈と法律家』その後―」

〈第三回研究会〉

二〇一五年七月二四日

前田 勉「江戸の読書会と明治」

清水唯一朗「制度の政治史―統治をめぐる四つの枠組」

二〇一五年七月二五日

小川原正道「戦争と宗教―近代日本における相互関係」

植村和秀「昭和維新運動における『明治維新』イメージ」

〈第四回研究会〉

二〇一五年九月二六日

山田央子「栗谷李珥の朋党論―東アジアにおける『政党」

論比較への一考察」

國分典子「韓国における近代国家観の形成」

二〇一五年九月二七日

塩出浩之「越境する移民たちの近代日本…アジア太平洋地

域における日本人の移民と植民」

岡本貴久子「『記念植樹』と日本近代―明治〜大正〜昭和の系譜―」

マンガ・アニメで日本研究

(研究代表者 山田奨治、幹事 荒木 浩)

〔共同研究員名〕

飯倉義之、石田佐恵子、伊藤遊、岩井茂樹、岡本健、高馬京子、金水敏、白石さや、西村大志、山中千恵、山本牙里、油井清光、横濱雄二、吉村和真、谷川建司、安井真奈美、北浦寛之、宮崎康子、小泉友則

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一五年六月六日

作品検討 押見修造『悪の華』(二〇〇九〜二〇一四)

紹介者 小泉友則

成果出版等について打ち合わせ

〈第二回研究会〉

二〇一五年六月二七日

日本マンガ学会第一五回大会参加

ラウンドテーブル「マンガ・アニメと〈戦い〉―社会・文化とのインターフェースを考える」

発表者 山田奨治、谷川健司、高馬京子、伊藤 遊、白石 さや

二〇一五年六月二八日

日本マンガ学会第一五回大会参加

〈第三回研究会〉

二〇一五年九月二六日

作品検討『助産院へおいでよ』

紹介者 安井真奈美

作品検討『るろうに剣心』

紹介者 北浦寛之

二〇一五年九月二七日

成果出版についての議論

新大陸の日系移民の歴史と文化

(研究代表者 細川周平、幹事 瀧井一博)

〔共同研究員名〕

赤木妙子、アンジェロ・イシ、糸井輝子、小嶋茂、佐々木剛二、スエヨシ・アナ、フェリッペ・アウグスト・ソアレ

ス・モッタ、高木（北山）眞理子、高橋勝幸、滝田祥子、根川幸男、日比嘉高、松岡秀明、水野眞理子、物部ひろみ、森本豊富、守屋貴嗣、守屋友江、柳田利夫、吉田裕美、早稲田みな子、栗山新也

〔海外共同研究員名〕

エドワード・マック、森幸一

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一五年六月一三日

エドワード・マック「ブラジルと新聞小説」

報告書出版に向けての打ち合わせ

二〇一五年六月一四日

工藤眞由美「南米・日系移民社会における言語接触のダイ

ナミズム」

（文責：研究協力課）

## 基礎領域研究

フランス語運用の基礎／応用（継続）

代表者 稲賀繁美

概要 フランス語の運用の基礎を実践的に訓練し、あわせて必要に応じて論文講読、仏文論文作成の手ほどきをする。

韓国語運用の基礎／応用（継続）

代表者 松田利彦

概要 研究その他の業務で韓国語を必要とするものに対し、会話、読解、聴解の習得を目指した授業を行う。

中世文学講読（継続）

代表者 荒木 浩

概要 『方丈記』や『徒然草』など、日本中世文学の文献を、影印を参照し、英訳なども対比しながら精読する。

日本近代まんが史概論（新規）

代表者 大塚英志

概要 サブカルチャー領域の研究を希望するこの分野の初心者に近代まんが史の初歩的な常識を概説する。